

[第 112 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 2 年 12 月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和3年1月10日(日) 15時～17時
- 場 所 安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 22 章 p.305～
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教を学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

12月もコロナ対策を十分に行って、第111回藤樹人間学塾を開きました。参加者は9人でした。

最初に「実践人 2020年12月号」で、森信三先生が、中江藤樹の思想、生き方や西晋一郎先生の教えから「学問が人生の第一義ではなくて、生きることが第一義である。そして生きることの意義を学問によって明らかにしていく」ということを心掛け、「真実は現実の只中にあり」に開眼したといわれていることを紹介しました。

さて、今回は『中庸解』第21章です。「誠なるよりして明らかなる、これを性という。…」。

大意について次の様に説明しました。「大宇宙とつながるように心にほんの僅かの汚染のないものは性といい元々誠である。これは聖人の徳です。教えによって学問修養して心の汚染をなくして誠に至る。これは賢人の学です。聖人の誠であっても賢人の誠であっても区別はない。

では聖人でない私たちはどうして誠に至るか？

ここで、「致知 2020年9月号」の「人間を磨く」特集で、①古今の師に学ぶこと(安岡正篤)、②仕事に打ち込むこと(鈴木大拙)、③意識を高めること(松下幸之助)、④へこたれずに磨き続けること(道元)が大切とされているのを紹介しました。



また「致知 2020年12月号」に特集「苦難にまさる教師なし」の記事や横田南嶺師の「常不軽」(常に人を軽んじない)の記事を紹介しました。

そして、「致知」に連載されている村上和雄氏が遺伝子が利己的だけでなく利他的に振舞っているといわれていることや、眠っている遺伝子をONにすれば誰でも天才なのです、といわれていることを紹介しました。

参加者からは「般若心経の『色即是空、空即是色』の意味が分かった」、「苦難にまさる教師なしはよかった」、

「予習したが、あやふやな理解が明確になった」、「資料中に気付きがいくつもあった」などの意見が出ました。「苦難にまさる教師なしにとらえられる人はよいが、上司からパワハラを受けて落ち込む人もいるので難しい」という意見には、「人を見て法を説く対機説法が大切だと思う」と答えました。

学ぶは愉(たの)し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。